

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月24日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010-2012

課題番号：22520011

研究課題名（和文）アリストテレスの「エネルゲイア」概念の形而上学における  
現代的意義の研究（3）研究課題名（英文）A Study on Aristotle's Concept of `energeia'  
in his metaphysics（3）

研究代表者

高橋 久一郎（TAKAHASHI KYUICHIRO）

千葉大学・文学部・教授

研究者番号：60197134

研究成果の概要（和文）：

新たな日本語版『アリストテレス全集』において『分析論後書』の翻訳と注解・解説を担当することになったため、規範性という問題を中心にエネルゲイア概念について検討することとなった。（1）知識論における規範性を考える上での核となる『分析論後書』の翻訳と注解をほぼ完成し、遅くとも来年度には刊行される。（2）メタ倫理における実在論と反実在論との論争を直接に実在性に関わる論争としてではなく、倫理学における規範性の問題を、知識論における「理由」とある意味でパラレルに考える立場について検討し、問題が依然として未決であることを論じた。（3）ことがらの概念的把握が、少なくともある種の場合には「発見」でも「約定」でもなく、いわば「自ずから」という位相にあることを、「死」という問題を検討しつつ論じた。

研究成果の概要（英文）：

This project is a part of consecutive studies on the concept of `energeia' in Aristotle's *Metaphysics*. On this project I focused on the relation of normativity and reason in epistemology and ethics. (1) The *Posterior Analytics* is one of Aristotle's most important books in logic, epistemology, metaphysics, and the philosophy of science. I have prepared my penultima version of new Japanese translation and written an introduction and commentary to be published next year. (2) In my essay 'Normativity and Moral Realism' I argued that the problem of realism in ethics should be discussed as a problem of reasons, which is the central concept of normativity. (3) In my essay on brain-death problem I proposed that at least some cases such as the concept of death our conceptual framework should be seen not as a matter of discovery or stipulation but as a matter of natural and spontaneous determination.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、哲学・倫理学

キーワード：アリストテレス、エネルゲイア、エピステーメー、論証科学、規範性、realism、normativity、reason

## 1. 研究開始当初の背景

「エネルゲイア」概念はアリストテレスの哲学において最も重要な、しかし、それだけに難解な、さらには、アリストテレス自身が具体的な事例から「類比」的にその意味を見て取ることで満足することを求めているため、(時には、分析的な解明のできないとさえ論じられた) 概念である。

この概念については、すでに優れた研究がなされてきたが、私は、現代における意義を明らかにするというプロジェクトのもとに、これまで、行為論、心の哲学、さらに形而上学における「エネルゲイア」概念の意義についての研究を継続的に行ってきた。

本研究は、その形而上学的な意義を検討するプロジェクトの三期目の研究として企画され、当初は、「規範性」との関わりを一般的に検討する予定であったが、『分析論後書』の翻訳を行うことになったこともあって、知識論における規範性という側面に重点をおきながら、規範性の問題について検討することにした。

規範性ということについての一般的な理解に基づいて考えれば、アリストテレスにおける規範性ということとは、通常は、エネルゲイアの問題としてというよりは、「ヘクシス(性向)」の問題として定位することになるかもしれない。しかしここには、ある意味で相反する要因がある。

規範性はしばしば「因果性」と対比されるが、アリストテレスは、一方では、世界におけるさまざまな事柄のあり方について、因果的な「説明」を求めながら、他方では規範性による「理解」を指向している。たまたま生起したことも、ある意味では、因果的に説明されることであるが、そうした事柄は、ある意味では、理解の外にある。つまり、まずは普遍的な説明の枠組みに入るのでなければならぬが、しかし、それだけでなく、理解されるためには、そのように「生起するのだからなければならない」ことが示されるのだからなければならない。

規範的なこととは、単に、「(たまたま、たとえそれが恒常的だったとしても) 発現することではなく、あるいはまた「」「発現すべき」ことであり、それは、それぞれのもののヘクシスとされることであろうからである。

しかし、他方で、エネルゲイアは、まさにそのヘクシスが、「端的に」発現したことであり、説明だけでなく理解の順序において先立つことであるとされている。

この点は今回の研究では立ち入れず、次回の研究の課題としたことでもあるが、検討されることになる「仮説的テーゼ」としてだけ

記しておけば、エネルゲイアは「べし」として記述されるような「発現する」ことではなく、「たまたま」ではないとしても、ある意味で「単に、あるいは自ずとに発現する」ことである。

## 2. 研究の目的

本研究は、結果として上記「背景」末尾の論点を示し、それを本格的に分析するための準備となった。そしてそのために、擬人化された言い方ではなるが、「善」と「善への自ずからの傾向」という、ギリシア世界だけでなく、ある種の「発見法」としては現在においても採用されている「目的論」的枠組みのもとで理解する可能性を念頭におきつつ、具体的には、「普遍的な説明の枠組み」としての知識(エピステーメー)と倫理学において、「そうあらねばならない」とされる規範性のあり方を論ずることとした。

(1)「背景」に述べたように、『分析論後書』の新たな翻訳を行うことになったため、エネルゲイア概念の「規範性」に関わる意義を「論証科学」における意味づけを中心に明らかにすることを第一の目的とした。

(2)「倫理」との関わりで論じられる規範性が、知識論における規範性と、どのように関わっているかを検討することを第二の目的とした。

## 3. 研究の方法

(1)アリストテレスの「エピステーメー」概念についてオーソドックスな文献学的手法を駆使して分析しながら、現代の知識論における知識の規範性のあり方についての考え方との異同を考察する。

知識に関する内在主義と外在主義という現代において顕著に論じられる大きな対立との関わりで言えば、アリストテレスは、先の「心の哲学」との関わりでの研究で論じたように、「知るものと知られるもの」として対比され、分断されたものの間の関連付けとして描かれることになる枠組みそのものを、拒否しようとしている。

本研究では、この確認の上で、つまり、「知るものと知られるもの同一性」を、それとして確認できるとは言えないとしても、何らか「同一性」が成立することを認めなければ、われわれの「知る」という営みが成立しないことの上に、その可能性を『分析論後書』においてアリストテレスがどのように展開したかを追跡した。

(2)「エピステーメー(論証科学)」とし

て探求される「領域科学」という理念と、形而上学における「存在としての存在」の探求との関わりを、(現代における)哲学の営み対比しながら考察する。

この作業としては、『分析論後書』の翻訳を通じて、『分析論後書』は、何を論じたのか、つまり、いわゆる「科学(方法)論」と言う意味での、科学の「メタ理論」であるのかという問いの設定のもとに、その側面を、つまり哲学には「科学」を「メタ」レベルで論ずるという役割があることを否定はしないが、それ以上に、より一般的に規範性のあり方をかいめいしようとする「哲学」であることを明らかにすることを試みた。

なお、『分析論後書』の翻訳に当たっては、北海道大学の千葉恵氏と数度に当たって討論し訳を検討する機会を得た。

(3) さらに、倫理学においてアリストテレスを受け継ぎながら「静寂主義(quietism)」として論じられることのある McDowell らの立場を検討し、知識論においても、とりわけ概念把握の問題との関わりで、同様の立場に立つ可能性を考えた。

#### 4. 研究成果

今回の研究は、「エネルギー」概念が「知識論」と「倫理学」において果たしている役割について、前者については主として文献学的観点から、アリストテレスの主著の翻訳を通じて、後者については逆に現代における「メタ倫理」における「規範性」における意義について成果を得た。

同時に、現代における規範性に関わる問題の幾つかについて、招待講演や口頭発表の機会をえて、考慮すべき幾つかの論点を提示した。

(1) アリストテレスの新たな全集(日本語訳)に所収予定の『分析論後書』の翻訳を行い、注解・解説を加えた上で近々刊行する。

『分析論後書』は、一般的に言えば、原則的に普遍的で必然的な「論証的知識」の、幾何学をモデルとした「構造」(第1巻)と、自然学をモデルとした「探求法」(第2巻)のあり方についての論考であり、いわば、特定の対象領域を限定した上での「領域科学」と、その「科学方法論」とでも言うべき位置を占めている。これらのことを否定する必要はない。

しかし、それと並んで、あるいは、より以上に注目すべきは、エピステーメー関わるわれわれのヘクシスについての論考でもあることである。この翻訳は、この視点から全体を見ることを試みている。つまり、典型的には、「本質の論証」という、アリストテレスが描いた枠組みからは構造的にはありえない問題が執拗に議論され検討されているこ

との意義を、探求者の「視点」から見るということである。

「本質は自ずと見えてくる」。見えたものが、それで真であるという保証は、しかし、探求の営みの中にしかない。「知っていることを知っている」という「知の透明性」というあり方は否定されることになる。

現在、全集の刊行については岩波書店より刊行予告が公示され、『分析論後書』については関連書の翻訳との最終的調整段階に入っており、遅くとも、来年度中には刊行される。

(2) 日本における若手の哲学者の研究団体である「哲学若手フォーラム」の研究集会において「メタ倫理」についての招待講演を行い、その内容を承けた「規範性と実在性」において、エネルギー概念の「規範性」に関わる側面について論じた。

近年、Raz や Parfit らを主な提唱者として論じられている、規範性を「理由」という概念を核にして分析する試みを検討し、こうした立場は「基本的に正しい」と論ずることになった。

倫理的価値、とりわけ、「正・不正」という価値に関しては、私は、依然として、「表出主義」的「反実在論」の可能性を追求したいと考えている。そのため、Raz らの議論は、必ずしも歓迎すべき立論ではないのだが、つまり、われわれは、ある「事実」を「理由」として、そこに、ある「価値」を「見る」という図柄には、まだ「隙間」があると考えている。しかしそれでも、「理由」ということを抜きにして「規範性」を語ることはできないことを消去法的に論じ、次の研究の課題を明らかにした。

(3) ある種の出来事、例えば、死という出来事について、われわれは、それを「死」という概念のもとに把握する。死を「死」として概念的に把握することは、世界のあり方とわれわれのあり方の双方に関わることである。

概念的に把握するということは、出来事の「発見」というのでも、また「構成」というのでもないあり方をなしうる、むしろ、しているということを「脳死」論における「死の定義」という論点を通じて論じた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 高橋久一郎「規範性と実在性」『哲学の探究』(招待論文) Vol.40.哲学若手フォーラム、2013、pp. 1-20.

- ② 高橋久一郎「脳死・臓器移植、そして尊厳死問題によせて」『『個体と権利』千葉大学人文科学研究プロジェクト報告書、査読なし、2012、pp.1-13.

[学会発表] (計6件)

- ① 高橋久一郎「私の身体が応答していないと思うことの不安」文化看護学会 2013/03/17 千葉大学
- ② 高橋久一郎「シンポジウム 震災と倫理」(特定質問)日本倫理学会 2012/10/14 日本女子大学
- ③ 高橋久一郎「何故私は実在論者にならないのか？」哲学若手フォーラム 2012/7/14 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ④ 高橋久一郎「シンポジウム 技術者と哲学者の論点共有の可能性——福島原発に関して」(提題)応用哲学会 1012/4/22 千葉大学
- ⑤ 高橋久一郎「特別企画 倫理学 (の研究者) は震災・原発事故にどう向き合えるのか、何ができ、できないか」日本倫理学会 2011/9/30 富山大学
- ⑥ 高橋久一郎「『応用哲学を学ぶ人のために』合評会 提題」応用哲学会 2011/9/23 京都大学

[図書] (計1件)

- ① 翻訳 パスモア『分析哲学を知るための哲学の小さな学校』高橋久一郎他訳 (大島保彦) ちくま学芸文庫、2013、316頁

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 久一郎 (TAKAHASHI KYUICHIRO)  
千葉大学・文学部・教授  
研究者番号：60197134

### (2) 研究分担者

なし ( )  
研究者番号：

### (3) 連携研究者

なし ( )  
研究者番号：

### (4) 研究協力者

千葉 恵 ( CHIBA KEI)  
北海道大学・文学部・教授  
研究者番号：30227326